



(株)メイコーの社内防災訓練に参加 8月27日(火)に深谷大上ふれあいの家で実施

地元企業の(株)メイコーは、大上地区社協が管理運営している“深谷大上ふれあいの家”を会場にして災害救助工具を使った防災訓練を、8月27日(火)の午後1時30分から2時間にわたって行いました。

当日は、同社の自衛消防隊員と総務部の丸山部長はじめ、総務・人事課員15名が参加。また、この日は火曜喫茶店の日でもあり、大上地区社協の市ノ澤会長はじめ火曜喫茶店の来店者11名もこの訓練に参加させて頂いた。

訓練は、講師に遠藤防災事務所代表の遠藤氏を招いて、地震対策や災害発生時の救出救護活動心得についての講義があり、続いて広場でパール、ツルハシ、ハンマー、ジャッキ等の工具を使った救護活動の実技指導に、参加した皆さんは真剣に聞き入り、また実際にハンマーやジャッキの実技で体得していました。

その後の総括の講話では、企業と地域社会との防災活動のあり方について、企業が地域に声をかけて一体となって防災訓練を継続して実施し、いざという時に備えるのが一番という説明に皆さん盛んにならずいていました。

なお、(株)メイコーは、1975年(昭和50年)に地元大上在住の名屋佑一郎氏が大上で起業されて現在も代表取締役社長。同社は大上に本社、神奈川工場を持ち、国内はもとより中国やベトナムにも工場を有し、日本の電子回路基板大手企業として世界を股にかけて活躍されている会社です。2013年3月期時点で資本金105億円、連結売上高607億円、グループ従業員1万人を要し、株式をジャスダックに上場しています。

大上地区社協は、同社から毎年、多額の寄付を頂いてテレビ、カラオケセット、パソコン、冷蔵庫等を備えることが出来、日常のボランティア活動に大変役立っています。



救出救護活動心得を聞く



工具の使い方の説明に納得!



同社の広報も取材で参加

北の台中学校PTAの 夜間パトロールにも協力

北の台中学校PTAは、例年夏に校区内の大上、蓼川、寺尾中地区において夜間パトロールを実施しているが、今夏も大上地区社協と大上、蓼川、寺尾綾北の青少年健全育成会の協力を得て、8月19日(月)の午後6時30分から1時間にわたってパトロールを実施しました。

当日は、校区内を4つの班に分かれて実施。大上地区は2つの班で、第1班はクリエイト前から、第2班は北の台中学校裏門からのコースで巡回しました。各班には先生とPTA役員を中心に、協力団体のメンバーが加わった10~12名の編成で、コース内の要所をチェックしながら巡回し、異常のない事を確認しました。



大上ゆめ公園もパトロール